

水稲

稲わらの早期耕うんによる効果

稲わらを早期にすき込むことで、地力増進、病害虫抑制等の効果が期待できます。

●地力増進効果

近年、出穂期から登熟期が高温暖傾向にあり、後期栄養不足や稲体の活力低下による登熟不良を招き、品質低下の大きな要因となっています。そのため、稲わらすき込みや土づくり資材の施用により、地力増進が重要になります。また、秋にすき込むことにより、春のすき込みよりワキ(メタンガス、硫化水素)の発生が抑えられ根腐れ等の生育障害を軽減することが出来ます。

〈すき込み時期〉

稲わらのすき込みは、収穫後できるだけ早く、地温の高い時期に、土づくり資材を散布後、実施して下さい。これは、稲わらの分解を担う土壌微生物は地温が15℃以下になると活性が低下するため、すき込みが遅くなると稲わらの分解が十分すすまないためです。

〈すき込み方法〉

稲わらの分解に必要な酸素供給や春先の土壌の乾燥促進等を考慮し、耕深は5〜10cmの浅うちとして下さい。湿田や冬期に湛水しやすい水田は、排水溝を作ります。

●病害虫抑制効果

①いもち病
菌は被害わらで越冬して翌年の発生源となるので、いもち病が発生した圃場は、収穫後、速やかにすき込むことで、圃場で越冬する菌を抑制できます。

②紋枯病

菌株で越冬しますので、早期に稲わらをすき込むことで、圃場内に残存する菌核を減少させます。

③ニカメイガ

ニカメイガの越冬虫は、稲わらに潜んでいますので、収穫後に稲わらをすき込み、幼虫が越冬しないようにします。



●雑草抑制効果
オモダカクワグワイ等の多年生雑草は、低温や乾燥に弱いので、耕うんにより塊茎を掘り出し、地表面にさらすことで、塊茎量を減らす効果があります。



ソラマメの栽培について

野菜

栽培特性

①生育適温は13〜18℃ですが、苗は寒さに強く、5℃以上あれば生育し、0℃になっても寒害を受けません。
②ウイルス病にかかりやすいので、アブラムシ防除を徹底して下さい。

①圃場準備

種まきの2週間前には、1㎡当たりたい肥1kg、苦土消石灰120g、ようりん40gを施し、よく耕しておいてください。
うねを立て、1㎡当たり野菜有機282を60g、70gを施し、土と混ぜてください。



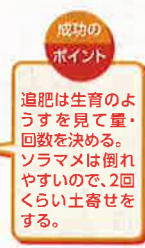
②種まき・育苗

種まきは10月末〜11月上旬に、「おはぐろ」を斜め下にして、種を縦に2〜3ほど土の中に挿し込みます。3〜4cm覆土した後、軽く手のひらで押さえておいてください。「おはぐろ」を上にする、芽が出にくく腐ることもあります。そろい良く発芽させるポイントは、深くまきすぎず、乾かさなことが重要です。



③畑の準備・植え付け

生育が進むと分岐部分が地上に出て倒れやすくなるので、土寄せをします。



④害虫防除

アブラムシがつきやすく、ウイルスを広めるので早目の防除が必要です。

また、アブラムシはキラキラ反射する光を嫌うので、防虫テープの利用も効果的です。

⑤せん葉

春になって茎葉が伸びすぎると倒伏のおそれがあるので、上の方を刈り取る。



⑥収穫

さやの背筋が黒褐色になって光沢が出はじめ、さやが上向きから下に垂れてきた頃が収穫の適期です。



⚠ PCB(ポリ塩化ビフェニル)を含む廃棄物の適正処理について

【PCB含有している電気機器が無い点検を行って下さい!】

PCBを含む電気機器等(変圧器、コンデンサ、家庭用を除く照明用安定器など)を使用または保管されているときは、PCB特措法に基づき届出が必要です。あなたの事業所の電気室、キュービクル(高圧受電設備)、倉庫などを点検してください。PCB特措法では、毎年度PCB廃棄物保管状況等について届出を行い保管するとともに、期限内に適正に処理する必要があります。現在届出を行っていない場合は滋賀県または大津市までお問い合わせください。

良質米生産、カドミウム吸収抑制のため耕起前に土づくり資材を散布しましょう

JAの土づくり資材は、アルカリ補給だけでなくケイ酸・リン酸も豊富に補給できます。



病害虫に抑制効果のあるケイ酸は、60kg散布で、約18kgのケイ酸が補給できます。

※水稲一作に必要なケイ酸は、15kg〜30kgが必要とされています。

